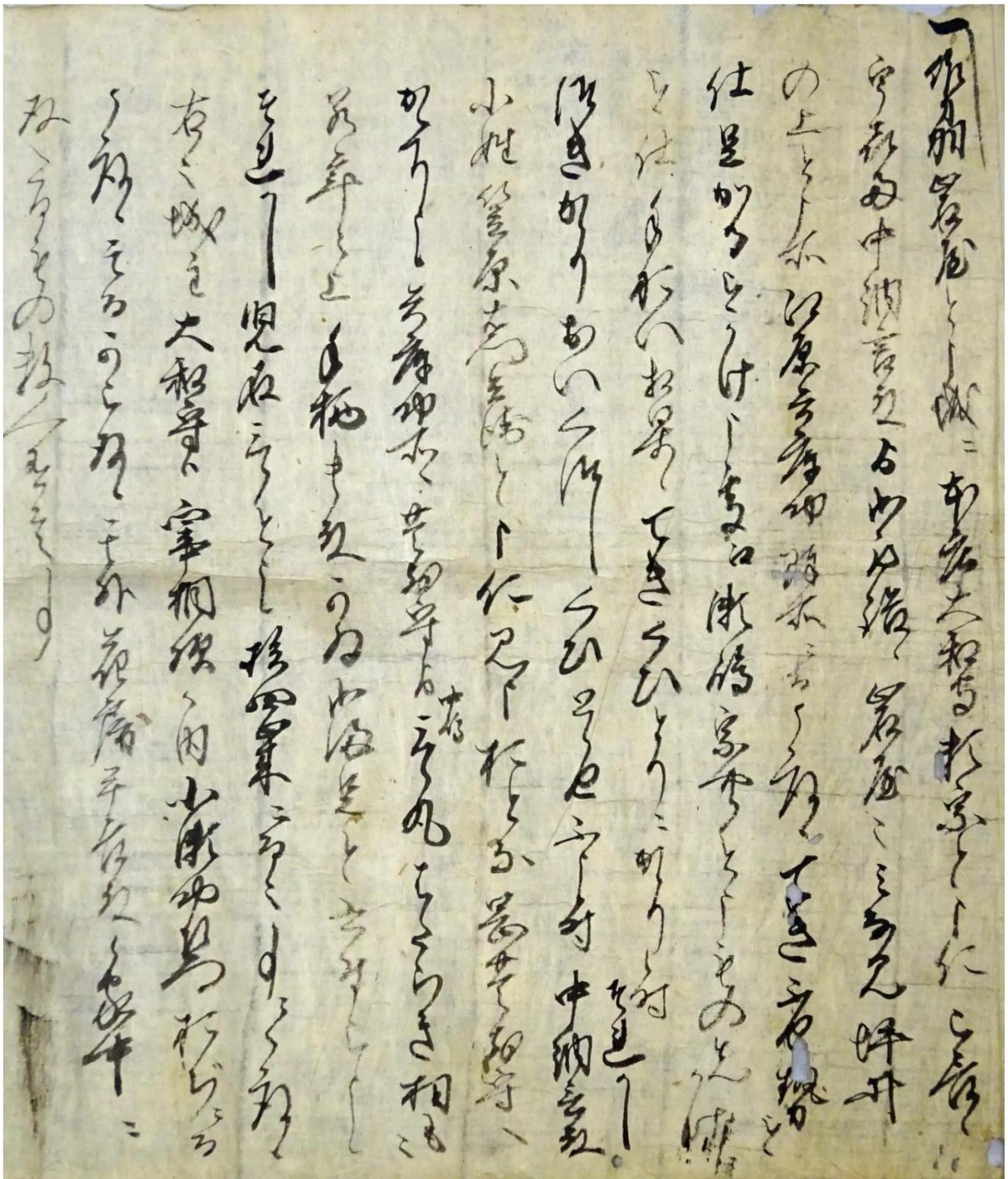


一	作	州	岩	屋	と	申	城	二	本	庄	大	和	守	頼	宗	と	申	仁	被	居	候	、
宇	喜	多	中	納	言	殿	方	御	取	詰	候	、	岩	屋	之	ミ	な	み	坪	井		
の	上	と	申	所	、	江	原	兵	庫	助	陣	所	二	而	御	座	候	、	て	き	ふ	せ
仕	、	足	か	る	を	か	け	申	処	江	、	瀬	島	宗	四	郎	と	申	も	の	先	か
を	仕	、	手	お	い	相	果	候	、	て	き	く	ひ	と	り	二	か	、	り	候	時	、
(徒)	つ	き	か	、	り	お	い	く	つ	し	、	く	ひ	と	ら	せ	不	申	候	時	、	中
小	姓	笠	原	右	衛	門	兵	衛	と	申	仁	見	申	、	お	と	な	岡	豊	前	守	へ
か	た	り	申	候	、	兵	庫	助	所	へ	豊	前	守	方	中	島	三	郎	丸	は	た	ら
若	年	之	上	、	手	柄	貴	殿	可	為	御	満	足	と	書	付	被	申	候	、	は	た
そ	れ	(連)	か	(可)	し	児	名	三	郎	と	申	拾	四	歳	二	而	之	事	二	御	座	候
右	之	城	主	大	和	守	ハ	、	宰	相	様	御	内	小	瀬	助	左	衛	門	お	ぢ	二
御	座	候	、	定	而	可	被	存	候	、	其	外	花	房	平	吉	殿	御	家	中	二	
存	た	る	も	の	数	人	有	之	候	事												



(意訳)

一作州(美作国)の岩屋と申す城に本庄大和守頼宗と申す人が居られました。宇喜多中納言殿(秀家)より(岩屋城を)お取り詰めになりました。岩屋城の南、坪井の上と申すところは、江原兵庫助(親次)の陣所でございます。敵が伏せ勢をして足軽を掛け申しているところへ、(宇喜多家臣の)瀬島宗四郎と申す者が先駆けをして(攻めかかったものの)、手負いして相果てました。敵が(討死した瀬島宗四郎の)首を取りに飛び掛かってきました時、それがし(中島政家)が突きかかり、(敵を)追い崩し、(瀬島宗四郎の)首を取られました(江原兵庫助親次)のところへ(豊前守(岡豊前守家利)より「中島三郎丸の働きはさてもさても若年のうえでの手柄、貴殿(江原親次)も御満足のことでしよう」と書付を送って申されました。それがしは児名(若いころの名)を三郎と申しました。十四才になったころのことでございます。

右の(岩屋)城主大和守は、宰相様(池田忠雄)の御内(ご家来)の小瀬助左衛門の叔父でございます。定めて存じられているでしょう。そのほか花房平吉殿のご家中に(この戦いのことを)存じている者が数人いると思えますことです。
(言葉・固有名詞の解説)
 岩屋城：津山市中北上にある山城。
 頼宗：一般的には中村頼宗の名で知られる人物。小瀬助左衛門の叔父。毛利氏に味方して宇喜多氏に抵抗していた。
 宇喜多中納言殿：宇喜多秀家(一五七二～一六五五年)のこと。備前・美作ほか48万石余の大名。岡山城主。
 江原兵庫助：江原親次(？～一五九八年)のこと。宇喜多氏に味方する領主で岩屋城には

ど近い篠茸城(真庭市大庭)の城主。この時点での中島政家の直接の上司。
 岡豊前守：岡家利(？～一五九二年)のこと。宇喜多氏の宿老でいわゆる宇喜多堤に関与したとされる人物。
 宰相様：池田忠雄(一六〇二～三二年)のこと。はじめ淡路の領主、後に岡山藩主。参議の官職を持つので宰相と呼ばれた。
 伏せ勢：伏兵のこと。
 取詰：包围して追い込むこと。城攻めを指す。この岩屋城攻めは天正十二年(一五八四)に行われた。